

中日新聞朝刊・中濃版(2016.11.8)

コラム・「森カフェ」より 関高校のSGH

関高校のスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業が面白い。先日記事にしたシャバーニの研究以外にも、生徒は自主的な課題研究に取り組む。

例えば一年生は現在、「関の刃物を世界に売り込



もう」をテーマに刃物のPR方法をグループで考案中。先月下旬には中京大学の坂田隆文教授が来校し、フィールドワークの手法も学んだ。ある女子生徒は「刃物の歴史は勉強している、今後の展開は考えた

SGH

ことがなかった」と話す。また二年生は独自のテーマで研究活動を進め、学年末には英語で成果を発表する。担当教諭は「部活や学校行事などの昔ながらの人材育成もいいが、国際水準の研究をする外部機関と関わることは大事だ」と力を込める。

記者の母校も、先進的な理数教育を行うスーパーサイエンスハイスクール(SGH)の指定校。ただ文系生徒だった自分には、どこか縁遠い話と思う節があった。生き生きとSGHの取材に伝える関高生はいつも輝いて見えるし、自分も刺激を受けている。

(大野雄一郎)